

Offshore

1999/No.265

OFFSHORE 265号

平成11年2月25日発行(毎月1回25日)
 発行 社団法人 日本外洋帆走協会
 編集:本部会報小委員会
 平成10年9月1日第三種郵便物認可
 〒108-0014 東京都港区芝5-15-5 泉ビル4F
 電話・東京03(3452)5812
 FAX・東京03(3452)5815
 ホームページ: http://www.norc.com/
 編集制作協力:株式会社 舵 社

目次 1頁	公告	2頁	ヨット界統合準備委員会議事録
4頁	全国計測 & 技術委員会議事録	7頁	ジャパン-グアムレース
11頁	第1回理事会議事録	13頁	第1回代議員会議事録
15頁	運輸省からの指導文書について	16頁	NORC記念誌発行

1部定価300円(郵送料別)

NORCホームページ会員専用ページの
 アクセス方法
 NORCホームページのメニューで「会員専用」
 をクリックし、半角文字で
 (1) ユーザー名にmember.
 (2) パスワードにyachtと入力すると、NORC
 会員専用のページに入ることができます。

公 告

1999年2月15日

社団法人 日本外洋帆走協会会長 戸田邦司

現JYAの有効な4年会員(会費納入済会員)で且つ現NORC会員は、至急所属する各支部に現JYAの有効な4年会員のカードのコピーを添付の上ご連絡ください。

JYA 4年会員であり、1999年度NORC会費をご納入のNORC会員各位におかれましては、JSAFの基本会費となります5,500円をご返却いたします。

また、1999年JYAあてにJSAF会費を納入しようとする現NORC会員も至急所属する各支部に会費の納入方法についてお問い合わせください。

JSAF理事候補等決定

(理事候補11名 監事候補1名)

1 全国区選挙選出理事・監事候補

会長副会長クラス	戸田 邦司 A1060110
専務・常務クラス	尾島裕太郎 A1068877
本部長(外洋担当)クラス	古川保夫 A1068941
監事候補	清田 博 A1072008

2 地方区選挙選出理事候補

関東および関東以北ブロック	池田栄宏 A1082049 鈴木保夫 A1074107
中央ブロック	都築勝利 T1000293
西および南ブロック	小田泰義 N1000379

3 推薦理事候補 (4名)	富田 稔 A2074090 浪川 宏 A2092143 平賀 威 A2068965 山本高靖 A2079161
---------------	--

JSAF評議員候補決定

1 N協会支部会員が選挙で選出する評議員候補 (36名)

東京湾支部 (3名)	足立利男 A1090004	別部尚司 A1081115	野口隆司 A1086046
三崎支部 (5名)	市原恭夫 A1092170	川久保史朗 A1071024	服部一良 A2064432
	前田泰明 A1075084	山中昭弘 A2086113	
三浦支部 (4名)	今北文夫 A1064500	大谷正彦 A1063307	鈴木知二 A2067804
	山本憲生 A2066731		
湘南支部 (4名)	稲葉文則 A1084005	大野健作 A1091004	榛葉克也 A2091110
	渡辺康夫 A2066637		
駿河湾支部 (2名)	杉本光昭 S1071008	松永一生 S1076029	
東海支部 (5名)	川端治夫 T1075001	坂谷定生 T2080020	竹内聡一 T1000193
	森岡稔夫 T1085023	渡辺行彦 T1000100	
近畿北陸支部 (2名)	岡田清春 K1096690	三井祥功 K1000012	
内海支部 (6名)	稲継一洋 N1000676	植松 由量 N1000979	大倉 俊 N100902
	坂上一幸 N1001615	瀬川洗城 N2000537	馬場益弘 N1088504
西内海支部 (4名)	金井寿雄 I1000261	長浦勝則 I2000334	野田福美 I1000321
	山下文徳 I1000333		
玄海支部 (1名)	原田芳治 G1000108		

2 選挙理事の推薦に基づき選出する評議員候補 (9名)

岩田行史 I1000027	大矢 隆 T1000129	笠原文和 K1090546
地曳源樹 A2090091	鈴木重行 N1000991	高村 宏 A1082001
田中一美 A1079011	沼田尚文 A1086024	松本剛一 N2001071

日本ヨット界統合準備委員会議事録(第21回)

日 時 平成11年1月19日(火)

18:00~20:00

場 所 岸記念体育会館
スポーツマンクラブ

出席者(順不同・敬称略)

JYA側: 秋田博正 米澤 一
貝道和昭 岩田直幸
栗田栄一郎 青山 篤
今泉武伊知NORC側: 戸田邦司 古川保夫
尾島裕太郎 加藤正義
高田尚之

一 会議は、JYA貝道委員の司会によって進行された。

会議の冒頭、本日ご出席いただいたJYA秋田会長並びにNORC戸田会長から共に、統合化の問題が具体化しその進展を果たし得たことについて関係者の努力に対する謝辞が述べられ、併せて今後に残された諸問題への取組みについて要望があった。

(1) 統合準備の進捗状況について(説明)

JYA側から、次の説明があった。

16日開催の評議委員会においては、両協会による統合準備の実施状況を説明するとともに、統合の決議をとり、つづいて寄附行為変更の内容説明の後、審議に入った。「外洋帆走艇を統轄する団体」等の用語に若干の質疑はあったが、採決の結果統合決議及び寄附行為変更(案)は異議なく全会一致で可決承認された。また、新組織の会長・副会長の理事選出及び会費問題に関してもそれぞれ承認された。

次いでNORC側から次の説明があった。12月13日、総会を開催、組織統合のための解散決議は成立した。1月10日に代議員会・理事会を開催、新組織の理事候補・

評議員候補の選出について審議し、理事は全国区3人、地方区4人を選出し、他の4名は以上の7名によって推薦する。全国区は会長・副会長クラス1名、本部長クラス1名、専務理事・常務理事クラス1名を予定し、地方区は関東以北2名、駿河湾から近畿北陸地区1名、内海以西1名の定数を考えている。評議員は45名を定数とし、おおむね会員数100名あたり1名の割合で各支部から36名を選出、残りの9名は理事が全体を考慮して推薦することになった。以上の要領によって、現在立候補を受け付け中であり、2月21日には代議員会・総会が開催されるので推薦者の承認をとりつけ、新役員候補等が確定する予定である。

(2) JYA側から、組織統合上のスケジュールについて提案があった。検討の結果次のように双方合意した。

4月1日(木)新体制下第1回理事会を開催し、新組織の会長・副会長・専務理事を選出する。

4月9日(金)新組織設立披露パーティー(於マツヤサロン)を実施する。

4月10日(土)理事会開催、業務運営上の諸問題について検討する。

5月8日(土)理事会開催、JYA10年度事業報告・同決算報告及び11年度予算の補正審議を実施。

5月23日(日)11年度第1回評議員会開催、10年度事業・決算報告並びに11年度事業計画及び予算計画の承認を受ける。NORC側から2月下旬頃には、理事の役割分担等の検討が必要ではないかとの意見が出され、今後検討することで合意された。

(3) 諸規定の整備に関し、運営規則の「組織」に規定する内容、特に加盟団体・特別加盟団体、役員・評議員等、会員、理事会の組織・業務分掌については早急に

改訂することが必要であり、寄附行為検討小委員会で引き続き検討し、改正の方向性について2月の理事会に、またその改正案については3月の評議員会で審議できるように改訂作業を進めることで意見の一致をみた。

(4) 統合準備事務手続小委員会から、統合後の機関誌の名称、及び統合後の新マーク(代表旗)の説明があった。また、日本セーリング連盟・JAPAN SAILING FEDERATIONの名称及び、日本セーリング連盟のマークは、今後の類似使用等にそなえて現在商標登録を出願し、完了したとの報告があった。なお、連盟代表旗(エンサイン)のデザイン作成にご協力いただいた永井先生に対する御礼の場を設けたいとの提案があり、2月22日両協会から各4名程度の参加を得て計画することで了承された。

(5) NORC側から、平成10年10月29日日本ヨット界統合準備委員会議事録(1)イ(別参照)を再確認し、NORC解散の3月31日に発生するNORC支部のJYA寄附金(実質内容、次期繰越金)は、統合後速やかに加盟団体交付金としてJYA寄附金の相当額を還付するよう申し入れ、合意された。加盟団体については平成15年3月31日までに再検討されることが確認された。

以上

平成11年1月19日

社団法人 日本外洋帆走協会
専務理事 尾島 裕太郎財団法人 日本ヨット協会
理事長 貝道 和昭

(別添)第19回議事録の抜粋

(別添) 日本ヨット界統合準備委員会
議事録(第19回) (抜 粋)

日 時 平成10年10月29日(木) 18:30~21:00

場 所 NORC 会議室

出席者 (順不同・敬称略)

JYA側 貝道 和昭 岩田 直幸 栗田栄一郎 有馬 敬三

NORC側 古川 保夫 尾島裕太郎 加藤 正義 高田 尚之
鈴木 保夫

会議は、JYA貝道委員の司会によって進行された。

(1) JYA側から、日本セーリング連盟寄附行為(案)に関する検討内容について次のような説明があり、審議した。

ア. 略:

イ. 第36条「加盟団体等」の記述内容についてJYA側から次の修正意見の提出があった。

現在の四者合意案の第36条には、「都道府県を代表するセーリングスポーツ団体、及び外洋帆走艇団体は、本連盟の加盟団体となることができる。」となっているが、単に「……外洋帆走艇団体……」とだけの記述にしておくことは、将来に次のことで混乱が起るのではないかと懸念があるので、現段階において曖昧となる表現は避けておきたい。

これまでに合意している「外洋帆走艇団体」とは、現在の(社)日本外洋帆走協会の支部を含む包括的な組織を示すものであり、その他のクルーザー団体については今後の協議検討事項となる。また将来ワンデザインクラスとか、クラブとかの問題も今後の協議検討事項であり、これらの解釈上の問題が起らないよう、この際「……外洋帆走艇団体……」と表現されているところを「……外洋帆走艇を統轄する団体……」に改め、このことに関しては平成15年3月31日までの期間は(社)日本外洋帆走協会の支部であるとす

る。
以上の修正意見に基づいて審議した結果、提議された意見どおり修正することで両者合意した。

以下 略:

世界と日本 会員と組織の構成

日本においては外洋部門を含め帆走競技に関する主催共催、運営、協賛、協力など多くの語彙が定義なしに使われている、しかもそのさまざまな使われ方によってかえってNational Authorityとしての立場が薄れているという指摘もあり、国際部として海外の実情を調査するとともに新組織に対する多少乱暴な提案を行うものである。

なお情報収集にあたってはORC会長のズイダーバーン氏、US Sailing役員のモリソン氏、ライト氏、RORCジェネラルマネージャーのマイノード氏からいろいろな情報を提供していただいた。さらに戸田会長からも意見をいただいている。

国際セーリング競技規則RRS (1997-2000) 第7章のOrganizing Authority について現実に海外ではどのように行われているか、又日本のレース開催の実情と比較してみると添付の図のようになる。

アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、イギリスその他各国ではヨットクラブが公認クラブとして、クラブ単位もしくはクラブ共同でレースを運営するのが当たり前であり例外が見られなかった。実際上レース運営イコール、主催となっているのが現実である。日本においては大新聞等がスポンサーになる場合など「主催」権を強く主張するケースも多々あるし、又スポンサーとして金銭的な又は物質的な援助のみでイベント全体のやり方に口を出さないケースもある。海外で、例

えばカウズウィークのIBMなどは数十台のPCとソフト、人員まで出してすべての計算とスケジュールコントロールまでやって、スポンサー以上のことを求めない。つまり金を出すか、体力を出すか、最終目的は宣伝である。日本の場合宣伝よりも大会を意のままに企画する「主催」を求める企業や団体もあるから、「主催する、共催する、主催者のもとでレース組織運営に専念する等、選択肢を増やした方がヨット会の発展に有利であり、JSAFの運営基盤を維持する最低限の権威を保つための権限をレース組織運営に残し、主催の自由度を開放することによって権威主義から脱却することが重要」と云う戸田会長の意見を尊重し早急に主催、運営の定義とその責任範囲を明確にする必要がある。

アメリカを例にとると、クラブには協会加盟のメンバーと非加盟のメンバー両者が勿論在籍するが、その両者がクラブを支え、クラブ単位で上納金 (Dues) が支払われ、個人加盟会員 (6000円・年) とともに中央組織であるUSセーリング (Policyの運営と技術に専念している) を支える構造となっている。クラブはレースその他イベント運営の実行機関である。さらに、セールナンバーについても非加入艇に対しても低価格 (6000円・一生) で与えられ全艇登録が基本でありレース参加艇登録と別に管理される。

海外の運営方式の良いところも取り入れ、さら

に日本における非加盟会員が多く参加する公平な艇速予測プログラムとかけ離れた簡易レーティング使用レースの増加現状なども考慮し支部を構成するクラブ員に現在の非加盟の会員も低価格で加入できるように (ただしJSAF会員と区別して) にし、将来中央組織への会費納入方式 (個人会費、支部 (クラブ) 会費)、加盟支部 (クラブ) と中央との分離など提案したい。

ISAF 会長 Paul Henderson は世界各国のYacht Club に対し、ISAF Member Reciprocal Club (互惠条約) を結ぶよう契約書も用意し、ISAF Membership を持つ会員がそのクラブに入港する場合特別のアレンジメントを提供するよう依頼している。ISAFがリストするクラブは世界で約1000程であるが、注意すべきは日本としてIHONORCが日本の唯一のClub組織としてとらえられていてUSAの単一ヨットクラブと同じに扱われるのである。シーボニア、葉山、関西ヨットクラブ又は三崎支部等々がAffiliate Club として世界のClubと対等になるようでありたいと私は思う。

参考図 世界と日本会員と組織の構成

以上

国際 富田 稔

平成11年2月16日

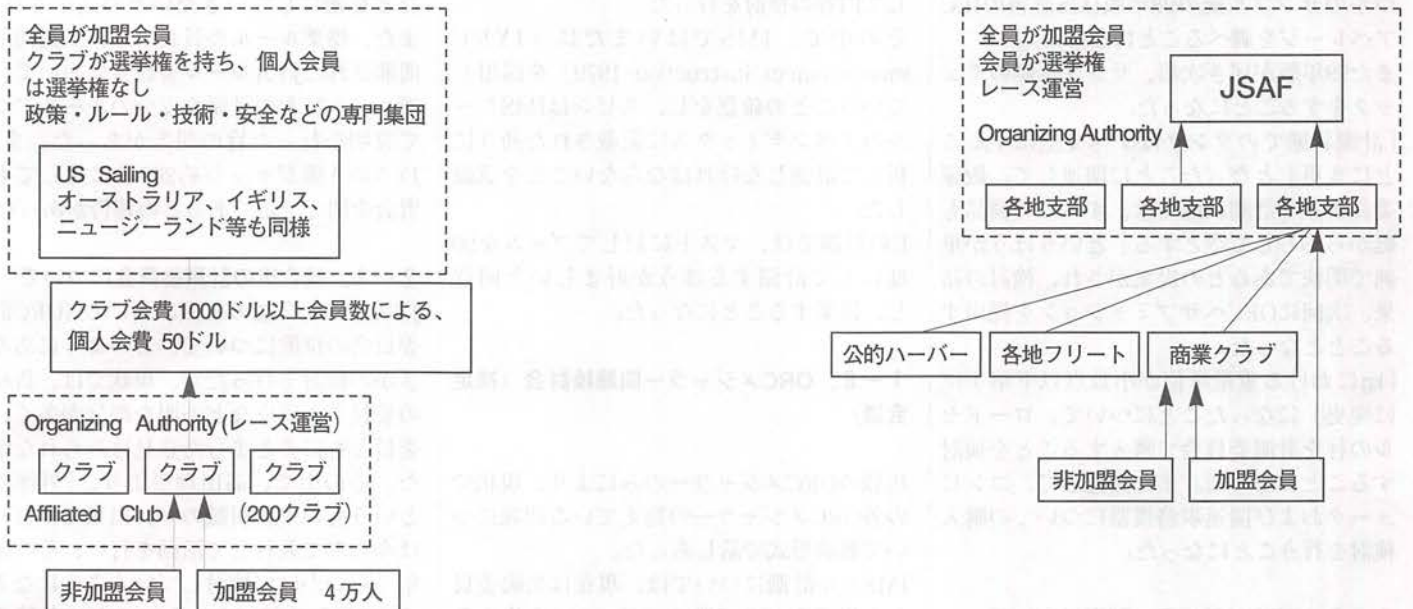
世界と日本 会員と組織の構成

世界は

1. クラブの独自性が強く一つの独立した運営母体である。クラブは上納金 (DUES)を支払う
2. レースの運営はクラブ単位、もしくはクラブ共同。
3. よって事実上Organizing Authority=主催となっている。

日本は

1. 現状支部組織は上位組織 (JSAF) の地方組織であり運営上の独自性が少ない。レース運営に関しても支部であったりクラブやフリートであったりする。
2. 加盟会員のみでなく非加盟会員が放置されている



海外の実情を元に構造改革の一例を提案すると

- ①現状の支部単位で海外のAffiliatedクラブと同等の役割 (JSAF公認の) を果たす組織とする
- ②支部単位又は共同でのレース運営 (Organizing Authority) を基本とする
- ③さらに将来、非加盟会員も支部会員 (非JSAF加盟会員) として認め (低価格、年5000円程度の) 総会員化を図る
- ④JSAF個人会員 (年会費12000円) のほかにクラブ費を会員数に応じ (総会員数×1100円) DUES—上納金として支払う
- ⑤新支部はIMS、CR、ORC-CLUBによる加盟会員、登録艇による公式レースと、非加盟会員を含むPHRFのレースも主催する
- ⑥Organizing Authority としてレースを運営するからには、管理水域、非管理水域のレースに関わらずすべての責任を負う
- ⑦新支部の役員構成は加盟会員のみとし、上位組織への投票権を持つ
- ⑧セール番号は非会員艇にも発行 (10000円・一生) し、レース登録艇に関しては今までと同じとする (毎年登録更新)

1999年 全国計測&技術委員会 議事録

計測委員会：矢嶋 滋

1. 1999年 ORCメジャラー会議

日時：1999年1月30日 14：00～20：30

場所：NORC本部事務局

出席者：大橋且典、山本高靖、矢嶋滋、野崎輝夫、山田裕治、中村隆彦、木内安夫、豊田哲郎、柏元孝博、飯塚功二、平岡俊一郎、田村治久、古谷光正、剥岩政次、今北文夫、東島和幸、大原義昭、吉川誠一、水越英次、林康雄、河本義夫、庄崎義雄

以上22名

1-1. ORCノベンパー会議報告

会議に出席した矢嶋委員より、資料「IMSの変更について」(Offshore No.264掲載につき参照)に基づいて報告があった。また、現時点ではIMS関係の計算プログラムが届いていないが、届き次第その検討を行ってIMS更新申込書やその他の必要書類の作成をしたい旨の報告があった。また、新たにクルーザー/レーサーディビジョンに設けられた DA (ダイナミックアローワンス) については、オーナー申告用の書類を新たに作成する必要がある旨の説明があり、アペンディックス9の和訳について誤りがないかの確認依頼が各委員にあった。

GPHの変更についてはクラス分けに使われるので、その値が大きく変わることは混乱となる可能性があるため、矢嶋委員がいくつかのサンプル艇の98年版IMS証書のILCアベレージを調べるようになった。

また99年版が届き次第、サンプル艇のチェックをすることになった。

「計測状態でのタンクはすべて空にすることに变更」となったことに関連して、飯塚委員より「計測状態では、すべての備品も艇からおろして空とする」というほうが単純で明快であるとの提案がされ、検討の結果、次回にORCへサブミッションを提出することとなった。

「kgにおける重量単位が小数点以下第1位に変更」になったことについて、ロードセルの秤を計測委員会で購入することを検討することになった。また関連して、コンピュータおよび関連事務機器についての購入検討を行うことになった。

1-2. ORCメジャラー制度について

大橋委員長より、すでに各ORCメジャラーから承認を得ている案に4つの変更を加えた制度案が提出され、再承認された。

制度発足に際し、すでに資格を保有しているORCメジャラーも「ORCメジャラー資格取得申請書」を2月中に提出することになった。新規のORCメジャラーとして斉藤晴雄氏を推薦する推薦状が提出され、検討の結果、承認された。

1-3. ORCメジャラー報告

各ORCメジャラーより、98年のIMS計測実績があった。

1-4. ORCセイルメジャラー部会報告

資格保留中であった小林敬晶氏と新規の中塩路実氏について推薦状が提出されており、新規の峯川康伸氏より実績報告が提出されているので、ORCセイルメジャラーとしての承認を検討した結果、峯川氏については推薦状の提出を依頼し、3名を承認することとなった。

野崎委員より、2年毎の講習会未受講者3名の扱いについて、現在は資格失効中となっているが、次回講習会を受講しなかった場合には資格喪失としてリストから削除する旨の提案があり、承認された。

来年は講習会開催年になるので、早い時期(年末)から世話人会を開いて対応する予定を確認した。これに関連して、次回セイルメジャラー講習会をORCメジャラー制度指定の講習会に指定したい旨の提案が大橋委員長よりあり、同意された。

1-5. IMSセイル計測とISAFセイル計測の融合について

ORCノベンパー会議の計測委員会資料であった、「Possible integration of ISAF sail measurement rules with IMS sail measurement rules」とその和訳を資料として内容の検討を行った。

その中で、IMSではいまだに「IYRU measurement instruction 1979」を採用していることの確認をし、スピンはIMSルールのアペンディックスに記載された通りに折って計測しなければならないことを認識した。

Eの計測では、マストに対してブームを90度にして計測するほうが好ましいと同意し、提案することになった。

1-6. ORCメジャラー問題検討会(補足会議)

現職のORCメジャラーのみにより、現状での各ORCメジャラーの抱えている問題について雑談形式で話しあった。

IMSハル計測については、現在は矢嶋委員しか出来ないため他のメジャラーも出来るように機会を作ることになった。

2. 1999年 全国計測&技術委員会

日時：1999年1月31日 09：30～13：00

場所：豊岡福祉会館

出席者：大橋且典、林賢之輔、山本高靖、

高橋太郎、沢地繁、矢嶋滋、野崎輝夫、山田裕治、斉藤晴雄、中村隆彦、伊藤静美、林政幸、大矢隆、豊田哲郎、柏元孝博、飯塚功二、平岡俊一郎、上阪和功、田村治久、古谷光正、湯谷武、北村完二、剥岩政次、青野忠純、長瀬巖、藁谷俊哉、東島和幸、角晴彦、伊佐馬克、今北文夫、戸田邦司、石崎五一郎、尾島裕太郎、高田尚之、榛葉克也、富田稔 以上36名

戸田会長より、委員会開催に先立ってJYAとの統合と新たな組織についての説明があり、統一された組織となればルールにおいて外洋知識のある人が必要となることが予想され協力してもらいたいこと、また、公式レースを統一したルールで実施することが、今までの蓄積の保持となることなどの話があった。

2-1. JYA計測委員会について

日本ヨット協会より出席いただいた石崎計測委員長より、JYAの計測の現状を説明していただいた。

計測は、主に各クラス協会の中にメジャラーが在籍しており、本部在籍のメジャラーはいないこと、大きくはルール委員会がコントロールしている現状とのことである。また、JYAとしても外洋艇の計測とそのルールについての知識が無いので、統合以後は都道府県連などからの参加も考え、連絡などを密にしていきたいとの話をされた。また、榛葉ルール委員長より、1週間前に開催されたJYAルール委員会において、外洋レース特有の計測や安全のルールについて説明を行った旨の報告があった。また、JYAのA級ジャッジ約200名に対しても講習会を開く予定であるとの報告があった。

2-2. 統合後の計測委員会について

JYAとの統合後の組織におけるNORC計測委員会の位置について、どのようにあるべきかの検討を行ったが、現状では、新組織の委員会の構成など不明な部分が多く、各委員ともにまとまった意見はみられなかった。その中で、高田理事より、「外洋本部というものが新組織の中に出来て、暫らくは今の形で並行して活動を行い、その後4年ぐらいかけて検討していくようになるのでは。」との話があった。また、矢嶋委員より提出の懸案事項については、IMS証書発行者の名称が変更された場合については有効とすること、その他の事務手続き関係については要望をしていくことで同意した。

2-3. オフショアヨット技術センターについて

林技術委員長より、ボランティアベースで

は対応出来ない技術的や専門的なことに対応するための専門家の集まりとして作る事となった経緯説明があった。また、山本理事より組織としてNPO法に対応できるか検討する旨の報告があった。

2-4. ORCメジャラー制度について

大橋計測委員長より、昨日のORCメジャラー会議での決定事項について報告があった。ORCメジャラー制度については、今北委員より資格停止または取り消しの項について追加訂正の提案が提出され、全員同意で訂正して承認することになった。また、ORCメジャラーとして斉藤晴雄氏、ORCセイルメジャラーとして小林敬晶氏、中塩路実氏、峯川康伸氏が承認された。

2-5. 各支部からの報告

各支部からの出席者が、IMSとCRおよびレースにおけるハンディキャップの昨年の状況について報告を行った。

東京湾支部：IMSはオーナー変更で数艇が増えたが、CR98の更新が芳しくない。横浜ベイサイドに艇が増えたがフリートになっていないためCRのメジャラーが不在である。

三崎支部：島回りレースではIMSのほうがCRより多くなった。台風でCRのメインレースが中止になった影響もあるが、CR98の更新が進んでいないので対応を考えている。

三浦支部：小網代フリートではKFR (CRの前身) を使用して毎月レースを行い、15~20隻の参加がある。

湘南支部：逗子フリートでは、参加艇の状況からレースによりCR95とCR98を使い分けしたが、CR98を使いたいと考えている。

駿河湾支部：IMSの新規艇は無かった。CR98の艇は34あり、レースはCR98で行っている。

東海支部：年9レースでIMSが5~15隻、CR98が20~30隻の参加がある。また、オープンレースはCR95ベースのハンディキャップを付けた。CRメジャラーが減少しているので、講習会を開催予定。支部より簡易ハンディキャップを作れとの声があるが、CRとの兼ね合いがあり考慮している。

内海支部：IMSが約40隻、CR98が約100隻。支部としての決定事項ではないが、IMS艇もCRを持っている場合、CRにも参加可能なことがあり、1つのレースでIMSとCRといった複数の成績を出すことがある。

西内海支部：IMSが12隻、CR98が91隻。主にCR98でレースが行われており、支部レースのSKKカップではIMSが15隻、CR98が31隻の参加があった。県連のレ

ースでもCR98を使用、未計測艇は支部計測委員会のアドバイスにより各レース委員会が決定している。

沖縄支部：過去に17隻のCR95取得があり、そのうちの9隻と新規の4隻で合計13隻がCR98を取得して、レースを実施している。

北海道支部：小樽ではCR95を使用しているが、津軽海峡支部との青函レースではCR98を使用して31隻が参加した。

大洗支部：CR95は30隻であるがCR98への更新が出来ていないので、今年前半に対応したいと考えている。銚子に新ハーバーができ、新たなレース等も考えている。

いわき支部：CR95が10隻でポイントレースを年5回開催。CR98への対応は今年に予定。

南九州支部：IMS、CRともに所有艇は無し。年に15回ぐらいのイベントがあり、IORをベースにした簡易ハンディキャップを使用している。CR98の導入も考えている。

2-6. ORCノベンパー会議報告

会議に出席された国際小委員会の富田委員長より、1998年ORC総会レポート (Offshore No.263掲載につき参照) に基づいて報告があった。また、矢嶋委員よりIMSのGPHの変更などの補足報告があった。(ORCメジャラー会議議事録を参照)

2-7. ORCクラブについて

山本理事より、比較検討するためのレースデータの提供をレース主催者に依頼している旨の報告があった。また、先に行われたジャパン・グアムレースのCR98、IMS、ORCクラブの比較について紹介があった。

3. 1999年CR全国会議

日時：1999年1月31日14:00~16:30

場所：豊岡福祉会館

出席者：鈴木利夫、山本高靖、大橋且典、沢地繁、矢嶋滋、林賢之輔、東島和幸、野崎輝夫、山田裕治、斉藤晴雄、春田隆三、近藤等、山下博史、辻達論、大河原雅之、大野健作、林政幸、大矢隆、豊田哲郎、柏元孝博、飯塚功二、上阪和功、田村治久、古谷光正、剥岩政次、識名朝典、湯谷武、北村完二、青野忠純、長瀬巖、薬谷俊哉
以上31名

3-1. CR98の発行実績

各支部からの出席者が、発行およびレースの状況について報告をした。(全国計測&技術委員会議事録参照)

その中で、CR98への更新が進んでいない

ことについては、PR不足が大きな原因ではあるが、シングルハンディキャップのCR95に比べて若干解りにくいことも要因では、との意見があった。

3-2. 非対称スピンとスピンボールの使用について

CR98ルール解釈の質疑応答について検討し、次の通り同意した。

1. スピンボールを非対称スピンに使用できるが、艇の中心線上以外にスピンのタックを取る場合、TPSの値とスピンボール長さの内大きい方をSPLとして計算する。
2. 非対称スピンのクリューに付けられたシートをスピンボールエンドにリードすることは出来ない。
3. 全てのスピンのSLU, SLE, ASMW, SL, SMWを計測し、最大値を採用する。非対称スピンのラフは、リーチより少なくとも5%長くなくてはいけない。

ミッドガスは、フットの長さの75%以上であること。

3-3. ORCクラブについて

ORCクラブのオーナー申告書、サンプル艇のテストランデータとクラブ証書およびジャパン・グアムレースの成績比較について説明があった。成績比較について、ORCクラブはRMPのPCSを使用している成績であったため、ORCクラブのパフォーマンスラインでの計算を試み、電卓で計算できることを確認した。

ORCクラブと他のハンディキャップとの関係などについて討議を行い、概ね次の意見があった。

ORCクラブの日本での採用については、ORCは期待しているようだが、本当に必要かが判断できない。

独自のシステムとしてのCRは保持すべきと思われる、また、今のところCRは順調であり、ORCクラブが採用された場合にはCRの位置付けがどうなるのかははっきりさせる必要がある。IMS、CR、ORCクラブ、他の簡易ハンディキャップと選択肢が多いことも良いと思われるが、ユーザーサイドが混乱する可能性がある。ORCクラブのキーポイントは、ハルデータのオフセット、オーナー申告の信憑性、料金の3点と思われる。

また、ORCクラブについてCR部会が検討していることについては、対応出来る部門が他に無いことなどを考慮して、引き続きCR部会を中心として検討してもらうこととなった。

計測委員会名簿 (ORCメジャラー名簿を含む)

所属	役職1	役職2	役職3	氏名
本部	本部委員長	チーフメジャラー003	CR部会	大橋 且典
本部	本部担務理事		CR部会	山本 高靖
本部	レーティングオフィス		CR部会	矢嶋 滋
本部	ORC MC 委員			高橋 太郎
本部	コンピュータ		CR部会	沢地 繁
本部		セイルメジャラーチーフ		野崎 輝夫
本部		セイルメジャラー		山田 裕治
東京湾	支部委員長	ORCメジャラー019	CR部会	斉藤 晴雄
東京湾		ORCメジャラー017		野村 明宏
三崎	支部委員長		CR部会委員長	鈴木 利夫
三崎		ORCメジャラー013		中村 隆彦
三崎			CR部会	近藤 等
三崎			CR部会	春田 隆三
三崎			CR部会	山下 博史
三浦	支部委員長			河口 秀夫
三浦			CR部会	山崎 正二郎
三浦			CR部会	辻 達論
湘南	支部委員長		CR部会	大河原 雅之
湘南		ORCメジャラー002		伊藤 静美
湘南			CR部会	大野 健作
駿河湾	支部委員長		CR部会	林 政幸
駿河湾		ORCメジャラー009		木内 安夫
東海	支部委員長		CR部会	大矢 隆
東海		ORCメジャラー018		豊田 哲郎
東海		ORCメジャラー006		花川 幸一郎
近畿北陸	支部委員長	ORCメジャラー016	CR部会	田中 康一郎
近畿北陸				栗林 裕之
内海	支部委員長		CR部会	柏元 孝博
内海		ORCメジャラー005		飯塚 功二
内海		ORCメジャラー007		田中 龍雄
内海		ORCメジャラー012		平岡 俊一郎
内海			CR部会	上阪 和功
西内海	支部委員長	ORCメジャラー008	CR部会	田村 治久
西内海				増金 道晴
西内海				福田 宏之
西内海				古谷 光正
玄海	支部委員長			水上 博信
沖縄	支部委員長		CR部会	識名 朝典
北海道	支部委員長		CR部会	湯谷 武
北海道				鈴木 喜博
津軽海峡				
大洗	支部委員長			金子 友好
大洗			CR部会	青野 忠純
いわき	支部委員長			岡山 寿
いわき			CR部会	長瀬 巖
南九州	支部委員長		CR部会	剥岩 政次

本部技術委員会名簿

役職2	氏名
委員長	林賢之輔
ORC関係	高橋太郎
NORCチーフメジャラー	大橋且典
コンピューター関係	沢地繁
法政関係	今北文夫
I S O関係	東島和幸
I S O関係	角晴彦
I S O関係	伊佐馬克
	増山豊
	中村隆彦
レーティングオフィス	矢嶋滋

ORCセイルメジャラー名簿

(講習日未記入者は資格失効中)

役職	番号	講習日	氏名
	SM001	1997/12/26	長谷川 淳
	SM002	1998/ 1/23	三船 清治
	SM003		戸叶 幹男
	SM004	1998/ 1/21	戸谷 壽男
	SM006	1998/ 1/28	吉川 隆三
副チーフ	SM007	1997/12/26	山田 裕治
	SM008		前田 利一
	SM009	1997/12/26	高橋 良寿
	SM010	1998/ 1/23	河本 義夫
	SM011	1998/ 1/28	林 康雄
	SM012	1998/ 1/23	庄崎 義雄
	SM013	1998/ 1/23	石川 信和
	SM014		五十嵐 研自
	SM016	1998/ 1/28	吉川 誠一
チーフ	SM017	1998/ 1/21	野崎 輝夫
	SM019	1998/ 2/ 4	高野 佳雄
	SM022	1998/ 1/21	大原 義昭
	SM023	1998/ 1/23	村山 進
	SM024	1998/ 1/28	若田部 洋
	SM025	1998/ 1/21	八木 達郎
	SM026	1998/ 1/21	水越 英次
	SM027	1998/ 1/23	小林 敬晶
	SM031	1998/ 1/28	甲斐 幸
	SM032	1998/ 2/ 4	峯川 康伸
	SM033	1998/ 1/23	中塩路 実

1999年度第1回 NORCルール委員会議事録

日時：1999年1月24日(日) 午後1時～3時
 場所：神奈川県三浦市マホロバマインズ
 参加委員： 榎葉克也、石井正行、大村雅一、秋山福夫、浅井一省、周東英脚、濱永裕、松崎義邦、村松哲太郎 (委員はあいうえお順、敬称略)以上9名

(決定事項)

- 日本セーリング連盟(JSAF)のルール委員会メンバーは、現在のNORCルール委員会メンバーとJYARルール委員会メンバーで構成する。
- JSAF統合後のナショナルジャッジ制度については、現行JYAナショナルジャッジ制度(A級、B級)をベースとする。

- 現行NORCナショナルジャッジ有資格者は、次の条件をクリアした後、JSAFのA級ナショナルジャッジに格付けする。(ルール委員も同様)
 - ① 現在NORC会員であること
 - ② 今後もJSAFナショナルジャッジとして活動する意思を確認できた者
 - ③ NORCナショナルジャッジでJYA・A級ジャッジ未登録の場合は、JSAF誕生までにNORCルール委員会が主催する講習を受け試験をパスした者講習会及び試験の日程は後日講師と協議して決定する。

東海支部以東
 講師：石井正行副委員長

近畿北陸支部以西

- 講師：秋山福夫委員
 *なお予算がないため、講習会会費は受講者が均等に負担する。
- ④ インターナショナルジャッジ及びその経験者は無条件でJSAFのA級ナショナルジャッジとする。
 - ⑤ 現行のJYAナショナルジャッジ有資格者にも海上衝突予防法、計測・安全等の外洋レースに必要なルールを習得してもらうために講習会をひらくようJYARルール委員会と協議する。
3. JSAF新規程については、NORC大村、JYA鈴木の両ルール副委員長で検討案を作る。

**第8回
ジャパン・グアムレース**
レポート/佐野康夫〈夢ひょうたん〉



私達「風小町グループ」が外洋クルーザー34FTを手にした時「海を越えて外国に行ってみよう」との夢が膨らみました。

「チャイナシー レース」、当時夢の中のものではなかったレース、しかし私たちの艇はこのレースのウィナーだった事があるのです。「チャイナシー」に行こう、話がまとまりかけたとき、第1回グアムレース開催が発表されました。

「ヨーシ これや」私達は参加することに決めました。その後のグアムレースは私達グループの活動と重なる様にありました。

しかし、大変不幸な事故があり、大切な友人とレースまで失うことになりました。

あれから7年、そのグアムレースが帰ってきたのです、私達はすぐエントリーしました。

サア、待ちに待ったグアムレースのスタートです。しかし、雪の舞う季節風の下での第1回のスタート時とは反対の晴天の微風、スピンを揚げたまではよかったのですがスタート時にはそれも無くなり、おまけに強い潮に流され本部艇にタッチと散々なスタートです。

それでもスピンをリーチングジブに交換し、本部艇タッチの解消をしている頃より北西の風が吹き出し、13時頃には友が島水道を通過でき一安心です。

そのままスターボーで帆走し、沼島沖でジャイブ風向も北に振れ、いよいよ待望のスピラン、日没までに日の岬沖を通過、いよいよグアムまでのオープン・シーを突っ走るだけです。約5度東からスタートする前回までとは違い、コースの選択が多くあり、行く手に伊豆諸島の様な障害物が無いのは気が楽ですが、反面コース取りが勝負の分かれ目になる可能性が高くナビゲータの腕の見せ所です。

私達は、25° N、142° Eを目安に、他艇より東を帆走するコースを取ることになりました。

以降例年に見られる発達した低気圧にともなう前線の通過もなく、N、NE~Eの順風にも恵まれ、18° Nを越えるまで快適な帆走が続き「この調子で行けば元旦の日の出と同時にフィニッシュできるデー」と話し合っていたのですが、その頃より風が徐々にSに振れだし、風速5~8ノット、艇速3~6ノットの真上り、「どうなってんの今年の貿易風、NO1ライトジブなんか持ってきてないデエ」

やっとEに少し振れリーチングジブで、艇速6~9ノットに回復しましたが、時すでに遅くラストの250NMIは30時間余りかかり、夜明けのゴールはでき

ず、私達の予定より半日遅の夜半の22:46:45にゴールです。

出迎いのポートから、フラッシュが光り、「おめでとう」「お疲れ様」VHFから懐かし高田先生の声、「又来てしもター」「しやけど ええもんやナア」

私達はこのゴールを4度目指し、マストを失い無念のリタイヤをした時もありました、やっと4度目の正直、夢にまで見たファーストホーム「嬉しい」確かに「嬉しい」、しかしこれはファーストホームのせいだけでなさそうです。

いかに平穏な航海であれ、1500NM余りを帆走してきたのです。この満足感、達成感、自己満足そんなこんな集合体!

“やっぱり これやデー ヨットレースは” 誰かが ボソッと呟くのが聞こえました。

最後になりましたが、この紙面をお借りしてレース再開にご尽力いただいた方々、今回お世話をいただいた全ての方々にお礼申し上げます。「有難うございました」「本当に楽しませて頂きました」「本年も宜しく」



**第9回ジャパン・グアムヨット
レースのアンケート**

皆さまの熱きご支援により7年ぶりに復活した、第8回1998-1999ジャパン・グアムヨットレースは無事に終了いたしました。終了後、グアム側の強い要望により今年にも第9回の開催を実施することになりました。

つきましてはその実施要項を作成するのにあたり、今回も皆さまのご意向を伺いたいと思いますので、以下の調査にご協力頂きたく、お願い致します。

なお、1月20日現在、決定している事項は以下の通りです。

主催：財団法人日本セーリング連盟 (JSAF)
外洋本部・三崎支部
マリアナス・ヨットクラブ (MYC・在グアム)
運営：1989-2000ジャパン・グアムヨットレース実行委員会
協力：グアム政府観光局
スタート日：1999年12月26日 (日)
表彰式・パーティ：2000年1月5日 (水) (於、グアム)

参加資格：
1. LOA10M以上のモノハル艇
2. ORCSPカテゴリー1
3. 次の無線設備を搭載している艇
i 衛星電話
ii 国際VHF
iii 衛星系 (406MHz) EPIRB
iv 予備の通信手段 (SSBかHF帯アマチュア無線、又は予備の衛星電話)
4. 艇長は500マイル以上、クルーはオーバナイトセーリングを含む通算100マイル以上のセーリング経験者。
5. ヨット賠償責任保険 (死亡時、一人一億円以上) を含む搭乗者障害保険 (乗員分)
参加申し込み締め切り日：1999年11月5日 (金) 17:00

アンケート内容

[スタート地点]	
1. 三浦半島、東京湾、伊豆半島を含む関東地方	12
2. 大阪湾等の近畿地方	11
3. その他の場所・案()	5
● 参加艇の多い地域	
● 島羽より西	
● 今回と同様	
● 陸地や潮流の影響が大きい湾奥はやめた方がいい	
1. 出場したい。(夢ひょうたん、ラッキーレディ)	2
2. 興味はあるが、今は何とも言えない。	15
3. 出場しない	9

その理由。

- 2 興味はあるが、今は何とも言えない。
 - いかにして休暇を取るか
 - 時間的余裕
 - 廻航要員がいない
 - 艇が古すぎて整備に費用がかかる
 - 事業現役のため長期間の休日を取りにくい
 - 5月GWか夏休み、年末年始を入れてのレースであればOK
- 実施されている時期、メンバー、艇等、結構克服する条件は多くきつい
- 参加艇が少なく盛りあがっていない。
- 費用が掛かりすぎる
- 未だ経験不足
- 3. 出場しない
 - 往復では長すぎてクルーを集め難い
 - 日程、能力的に無理
 - 休日が取れないし、装備のための金の工面が難しい
 - 参加資格②③を欠く
 - 艇及びクルージング用でレース用ではない
 - 長期間休めるクルーいない
 - 我がチームでは客観的に見てその実力が無いと思います。また近ごろのレースでは艇もクルーもほど遠いレベルです。
 - 装備、資金、経験、技量、時間的余裕など全て不足。

今回のこのレースに対するご意見

- 関係者の皆様ご苦労様でした
- 前回は大きな事故があり、スタート前は気になったが、レースの方は順調で、艇もコミッティの運営も巧く進んだと感じました。今回はスタートが関西だったことも良かった。伊豆諸島沿いに南下して行くにはポジションの確認は安心感はあるが、波が悪くなる可能性、リスクが大きいと思う。その分今回は成功、またコース選択についても、①東寄りコース。②ラムライン③中間コースと幅が広く楽しめた。次回は前半はラムラインで、中間で東にコースを取りたい。
- 今回のKYCホストは素晴らしい結果になったと思います。このようなビッグイベントを機に他のスタート地点になったとしてもホストクラブがKYCのような対応が取れるように努力することにより、クラブ意識の向上になると思います。シドニーホバートレースのニュースで世論もいろいろ厳しくなると思われますが、「陸」の人達に理解できない海のロマンを追求すべきです。
- 各艇に声を掛け、勧誘する中心的人材がいないと一般書面だけの案内では出場艇は多く集まらないでしょう。
- オーシャンゴイングは永遠の夢であり、目標です。関係者の地道な努力によって、継続されるこのイベントの歴史は参加しない我々にも、大きな希望を与えて来ています。「条件さえ整えばいつか…」是非とも続けて下さい。
- 二年に一度でも良いのではないかと? NORCのロングレースなので、ぜひ続けて欲しい。一度は出てみたいレースです。
- 参加艇が少ないのもう一つ盛り上がりがない。
- 運営が心配である。
- OFFSHOREに対する理解と満足を得るにはとにかく継続することです。

アンケート総数364通、内、回答31通 各設問複数回答あり。(中間報告 99213現在)

OSAKA CUP

**メルボルン／大阪ダブルハンド
ヨットレース・エントリーリスト**

1999年2月15日現在

Entry No.	Yacht Name	Nation of Entry	Division	Class
Class A				
33	FLYING COLOURS	Australia	R	A
11	YOKO	Australia	C	A
37	VISION QUEST	Australia	C	A
20	未定 現状報告無し	New Zealand		A
38	TEE SQUARED	Australia		A
Class B				
8	LUNA PROMINENCE	Japan	R	B
13	VETER	Russia	R	B
19	LUCKY LADY V	Japan	R	B
32	Titan Lady	Japan	R	B
21	ANT EATER	Australia	C	B
22	MOOMBA	Australia	C	B
28	NANIWA	Japan	C	B
16	SAYERNARA	Australia		B
Class C				
10	SPIRIT OF DOWNUNDER	Australia	R	C
12	AURORA	Australia	R	C
14	PHILLIP'S FOOTE	Papua New Guinea	R	C
18	LONGITUDE	Australia	R	C
24	GREEN HORNET	New Zealand	R	C
27	PRISCILLA TAMAGOMARU	Japan	R	C
30	TWO-UP	Australia	R	C
36	OUTRAGEOUS 3	Australia	R	C
3	DAVID HANNAH	Australia	C	C
4	RANGOON	Australia	C	C
7	BRINDABELLA II	Australia	C	C
9	KNOTS	Australia	C	C
23	ANN MARIE	New Zealand	C	C
34	CARMEN	Australia		C
35	RAMPANT	Australia		C
1		Japan		
5	未定 現状報告無し	Japan		
6	未定 現状報告無し	Australia		
25	未定 現状報告無し	Australia		
26	未定 現状報告無し	Australia		

Cancelled

2	Cancelled			
15	Cancelled	U.S.A.	C	C
17	Cancelled	New Zealand	R	B
29	Cancelled			
31	Cancelled	Japan	R	B

関東4支部水域FAXサービスの番号変更のお知らせ

昨年まで関東4支部で運営していましたFAX サービスの内、レース関係 (03-3452-8377) の番号が変更になりました。

新しい番号は **0468-53-5271**

1999年 関東相模湾サーキットシリーズ (KSC) 日程

レース名	日時	担当	主催	得点係数
第1戦 初島卯月レース	4/ 3	諸磯F	三崎支部	1.0
* 第2戦 大島レース	5/29・30	葉山F	湘南支部	2.0
第3戦 初島レース	7/ 3	シーボニアF	三浦支部	1.0
第4戦 トウキョウズカップ	7/31・8/1	実行委員会	東京湾支部	2.0
第5戦 御蔵島ドルフィンレース	9/23～25	熱海・伊東F	湘南支部	2.5
* 中止 初島レース	10/ 2	—	—	—
第7戦 神子元島レース	10/16・17	京急油壺F	三崎支部	2.0
第8戦 小網代レース	11/ 6・7	小網代F	三浦支部	2.5

詳細については各レース実施要項を参照して下さい。IMS クラス A.B.CR クラスとなります。

- * 大島レースの日程が変更になりましたので、ご注意ください。
- * 10/2の初島レースはジャパンカップとの日程調整のため中止になりました。

1999 KSC帆走委員会

1999年 ジャパンカップ情報

(以下すべて予定です。)

日程 10/ 2・3 インспекション、艇長会議
 10/ 9・10・11 各日インショア2レース
 10/16・17 オフショアレース、表彰式

参加資格 98年 IMS レーティング

GPH 520～650 (99年は数値が変わる予定)

ORC-3 NORC設備規定B (沿海)

出艇料 1艇 200,000円

レース海面 相模湾

参加締切 8/31

1999 ジャパンカップ準備委員会

三崎支部川久保史朗新支部長挨拶

セーリングシーズンも間近せまった候、会員各位におかれましてはますますご清栄の段お喜び申し上げます。

さて私こと、このたびNORC本部理事会及びNORC三崎支部代表委員会の同意によりNORC三崎支部長に就任いたしました。

会員皆様のご期待に沿えるよう専心努力をしたいと存じますので、なにとぞ前任者同様、格別のご支援ご指導のほどお願い申し上げます。

●三崎支部ホームページ開設

NORC三崎支部では、ホームページを開設しました。

アドレスは<http://2u.biglobe.jp/ismisaki/>

本部ホームページからもリンクできます。



第40回鳥羽パールレースへのお誘い

(実施要項)

はじめに

(財)日本セーリング連盟外洋本部 [旧(社)日本外洋帆走協会(NORC)]は登録外洋帆走艇1000隻を擁し、我国における外洋帆走並びに関連事業活動のオーソリティとして、レベルの向上並びに海事思想普及、海洋スポーツ振興に努めております。昭和35年東海支部の発足を契機として「鳥羽パールレース」を開催し、その後運輸省主催の「海の旬間」行事として毎年開催しています。

さて本年は(社)日本外洋帆走協会と(財)日本ヨット協会が統合して初めてで、通算第40回を迎える鳥羽パールレースは以下の要項で開催致します、多数の参加艇をお待ちしています。

IMS部門・CR部門の他にクルージング部門(機走可)もあります。ブルーウォーター派も鳥羽パールレースの雰囲気を楽しんで下さい。

尚、艇長会議後に安全セミナーを開催し、参加を義務づけします。参加申込艇には帆走指示書と詳細な案内等を7月5日に郵送します。

主催組織

主催/日本セーリング連盟(JSAF)外洋東海支部・外洋湘南支部
後援(予定)/運輸省・三重県・静岡県・鳥羽市・熱海・鳥羽市観光協会・熱海市観光協会・(株)御木本真珠島・鳥羽商船高等専門学校・(株)初島クラブ・(株)スパマリーナアタミ

大会役員

実行委員長 坂谷 定生
レース委員長 大島 茂樹
レース副委員長 稲葉 文則
ジュリー委員長 都築 勝利

スタート日時(スタート海域はヨセマル灯浮標東約1M)

IMS部門、CR部門、クルージング部門共
7月17日(土) 10:00

タイムリミット

IMS部門、CR部門 7月19日(月) 10:00
クルージング部門 7月18日(日) 15:00

コース

全部門共

鳥羽→神子元島(反時計)→初島(130M)

参加資格

IMS部門

IMSの有効なレーティングを所有している艇。アコモデーシヨノンフィールド艇にはTAの1%ペナルティを与える。

CR部門

有効なNORCクルーザーレーティング(CR98)を所有している艇。

IMS、CR部門共通

- 1) 登録艇、又は有効な旧NORC会友艇であり、艇長はJSAF外洋〇〇支部の会員であること。乗員は4名以上で全員JSAF外洋〇〇支部の会員であること。但しオーナー権利(オーナーが乗艇する場合に限る)で非会員2名を会員扱いとする。
- 2) 安全セミナーに出席した艇。
- 3) レース期間中、ヨット賠償責任保険に加入している艇。(鳥羽でも加入できます。)
- 4) ORC特別規定カテゴリーⅢ以上及び、NORC-B以上の特別規定検査に合格している艇で、『鳥羽パールレース特別規定』としてライフラフトを搭載のこと。

(乗員の1/2以上が乗れるもの)。

注) カテゴリーⅢの通信手段は国際VHFです。レース中のロールコールは原則としてch74で行います。自艇の無線局免許状の無線設備の項を確認して下さい。

クルージング部門

- 1)、2)、3)はIMS、CR部門と共通
- 4) 日本小型船舶検査機構の「沿海区域」以上に合格している艇で『鳥羽パールレース特別規定』としてライフラフトを搭載のこと。(乗員の1/2以上が乗れるもの)
- 5) 通信手段として国際VHFか船舶電話を搭載していること。

参加料：・出艇料(事前振込)

登録艇26,000円
会友艇41,000円(旧NORC会友艇で残存期間がある艇)
但し、鳥羽協力費3,000円、パーティ費2名義務付け分10,000円を含む
・乗員参加料
IMS、CR部門(クルージング部門は無し)

会員とは、JSAF外洋〇〇支部の会員をいう

会員1名 2,000円
パーティ：ナビゲーターパーティとして開催します。3人目以降のチケットは1名5000円で当日販売します。
於 鳥羽グランドホテル
7月16日 18:00~

参加申込：7月3日(土)までに参加資格を整え所定の申込用紙(JSAF外洋東海支部のFAXサービスで取って下さい)に記入し、出艇料を振り込んでからJSAF外洋東海支部事務局へFAXでお申し込み下さい。

銀行口座：東海銀行桜通支店
普通 1505606

口座名：JSAF外洋東海支部
出艇申告：7月16日(金)13:00~14:30(時間厳守)
於 鳥羽グランドホテル(4F しんじゅ)

提出書類

：IMS、CR部門共通
事前レーティング証書のコピー(参加申込時に提出)
当日一出艇申告書(2部)、会員証のコピー、「鳥羽パールレース特別規定」申告書、賠償責任保険証コピー
：クルージング部門

当日一出艇申告書(2部)、「鳥羽パールレース特別規定」申告書、賠償責任保険証コピー、船舶検査証コピー

艇長会議：7月16日(金)15:30~16:30
於 鳥羽グランドホテル(4F 三つ島)

安全セミナー：7月16日(金)16:30~17:00
於 鳥羽グランドホテル(4F 三つ島)

表彰式：9月11日(土)

於 蒲郡ニッポンチャレンジベースキャンプ北 蒲郡市民会館
泊地：鳥羽側(スタート)

従来の台船以外に安心して置ける大型艇専用泊地を用意しました。熱海側(フィニッシュ)フィニッシュ後は1時的には初島フィッシュマリーナに係留出来ますが、1週間置ける泊地(有料でレース参加申込時に申請)は、熱海港スパマリーナに用意しています。クルーの乗換、買物に便利です。

問合せ先：JSAF外洋東海支部事務局

TEL:052-971-5835 申込専用FAX:0566-52-6833

JSAF外洋東海支部のFAXサービスは052-971-5836で取り出せます。

13th NTT ERIKA CUP YACHT RACE IN GG

参・加・艇・を・募・集・し・ま・す

実 施 要 項

企 画/蒲郡エリカ号保存会
主 催/(社)日本外洋帆走協会(NORC)東海支部
共 催/愛知県ヨット連盟
後 援/蒲郡市・アメリカズカップ蒲郡基地協力会
協 力/ニッポンチャレンジアメリカ杯2000委員会・三谷漁業
協同組合

特別協賛/NTT

開催日/平成11年5月22日(土)・23日(日)

NORC東海支部

参加資格/

IMS部門 CR部門 NORC東海支部1999年度レース実施要項による。

ノンレーティング部門 クルーザーヨットで日本小型船舶検査機構(船検)に合格している艇で乗員は3名以上。この場合乗員の1名はヨットレースルールの理解を深めるためNORC会員であること、又有効なセールNoが必要。無い方は実行委員会までご相談下さい。

責任の所在/ヨットレースの国際ルールに基づき、レース艇がスタートするか否か、レースを続行するか否かの決定は各艇の責任で行うものでレース主催・運営者は、参加者、艇の傷害・損害に対して一切の責任を負いません。

前夜祭/5月22日(土) 17:15~20:30

場所:ニッポンチャレンジ蒲郡ベースキャンプ 芝生広場
「BUDWEISER ハーバーシアター」開催 入場無料

パーティー及び表彰式/

5月23日(日) 13:00~15:00

場所:ニッポンチャレンジ蒲郡ベースキャンプ 芝生広場
一般入場可

レース参加申込み/

5月9日までに参加料を下記に振込の上、専用申込書でFAXして下さい。専用申込書が無い方はFAXサービスで取って下さい。手続き確認後、帆走指示書(パンフレット)を発送します。

参加料/1艇

NORC特別会員登録艇、会友艇登録艇 ……12000円

NORCクラブ会員所属艇 ……14000円

NORC非登録艇 ……15000円

パーティーチケットの2名分2000円を含んでいます。

◆パーティーの3人目以降のチケットは当日会場にて販売します。

参加料振込先/東海銀行 桜通支店 普通口座 1309686

口座名 (社)日本外洋帆走協会東海支部

◆振込人名は、艇名 セールNo. を記入して下さい。

◆レース参加料は、いかなる場合も返却しません。

プレ企画パート1/市民体験模擬レース

スタート/5月22日(土) 12:30 (乗船11:30)

ボランティア艇による市民招待の模擬レース。

参加可能な艇は申込の際に申し出て下さい。

詳細を連絡します。

プレ企画パート2/ビギナーズセミナー

デート/5月22日(土) 14:00~15:00

蒲郡市民会館会議室にて解り易い実戦ヨットレースの講義を行います。参加希望の方は申込書に記入して参加下さい。

レース/「第13回NTTエリカカップ ヨットレース in 蒲郡」

スタート/5月23日(日) ノンレーティング部門 10:00

IMS部門 CR部門 10:15

コース/蒲郡三河大島沖 約7マイル(艇長会議にて指示)

適用規則/1997~2000 国際セーリング競技規則(RRS)

NORC外洋レース規則1997 大会帆走指示書及び艇長会議に従う。

本大会は、RRS付則G カテゴリーAの大会として種別します。

出艇申告/5月22日(土) 14:30~15:45

蒲郡市民会館 中ホール入口

艇長会議/5月22日(土) 15:45~17:00

蒲郡市民会館 中ホール

部門分け/IMS部門 CR部門 ノンレーティング部門とする。

クラス分け/各部門の参加艇数に応じてクラス分けを行う。

「第13回NTTエリカカップヨットレース in 蒲郡」実行委員会
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-21
丸の内東桜ビル 902号 NORC東海支部内

NORC東海支部

電 話 052-971-5835

申込専用 FAX 0566-52-6833

FAXサービスは052-971-5836で取り出せます。

1999年度第1回理事会議事録

1 日時

1999年1月10日(日) 10:30~13:30

2 場所

第1オカモトヤビル 4階会議室

3 出席者

理事30名中 有効出席者29名

(出席者)

戸田邦司、古川保夫、三井祥功、尾島裕太郎、加藤正義、高田尚之、池田栄宏、今北文夫、大谷正彦、鈴木保夫、野口隆司、平賀威、山本高靖、坂谷定生、小田泰義 以上 15名

(書面表決者)

周東英卿、榛葉克也、服部一良、渡辺康夫、松永一生、白井義博、川端治夫、竹内聡一、稲継一洋、馬場益弘、岩田行史、金井寿雄、山下文徳、松尾貴比古

以上 14名

(関係者)

理事 市原恭夫、清田博

その他 川久保史朗(三崎支部長)、稲葉文則(湘南支部長)

都築勝利(代議員 東海支部)、横山勝重(選挙管理委員長)

4 議題

議案

(1) 「N協会のJSAFの役員・評議員候補者選出・推薦にかかわる規則」(略称「JSAF役員・評議員選出規則」)等の一括承認を求める件

(2) 笹川スポーツ財団への助成金申請することについて承認を求める件

(3) 三崎支部長の新任同意をを求める件
報告

(1) 会費・船艇登録料等の納入の特例を
求める件

(2) 98年度安全委員会報告

(3) ジャパン・グアムヨットレースの実
施状況等

5 議事

(1) 1月10日(日) 10:30加藤常務理事は、理事30名中有効出席者29名を確認し、本理事会の成立を告げた。

戸田邦司会長はこれを受けて議長となり、理事会の開会を宣言し、議事録署名人に今北文夫理事及び野口隆司理事を指名し、議事に入った。

(2) 戸田会長挨拶

新年お目出度うございます。懸案のJYAとの統合については昨年12月開催された臨時総会で3月31日NORC解散、4月1日JSAF統合が決まりました。この短い期間にNORCの主張すべき点を明確にして、解散・統合に向けてのすべての基本的問題の解決を図らなければなりません。また、新しい年新しい組織での事業、例えばグアムレースの再開のような事業の展開を図る必要があ

り、ご出席の皆さんの一層の努力・支援をお願いして挨拶とします。

(3) 議題

議案

1) 「N協会のJSAFの役員・評議員候補者選出・推薦にかかわる規則」(略称「JSAF役員・評議員選出規則」)等の一括承認を求める件

(ア) 議案説明

(a) 4月1日発足予定のJSAFの役員・評議員候補者を選出する必要があります。組織統合合意書第8項及び第10項により、それぞれの協会が推薦したものををもって構成することになっております。

(b) 「N協会のJSAFの役員・評議員候補者選出・推薦にかかわる規則」等の内容は以下の7つからなります。

1. 前文

2. I JSAFの理事・評議員候補者の選出規則の背景

3. II 両協会の定めるJSAF役員・評議員候補の選出規則の位置づけ

4. III 役員・評議員候補選出・推薦にかかわる両協会の共通事項

5. IV 両協会の定める選出規則

6. V N協会のJSAFの役員・評議員候補者選出・推薦にかかわる規則

7. VI N協会のJSAFの役員・評議員候補者選出・推薦にかかわる規則細則

上記は一体となっているため、一括審議をお願いいたします。

なお、参考資料として以下を添付します。

1. Offshoreにての1998年12月14日、会長による「公示」

2. N協会のJSAFの役員・評議員候補者選出・推薦にかかわる日程等一覧

(c) N協会のJSAFの役員・評議員候補者選出・推薦にかかわる規則細則の附則第1項の「NORC 1999年2月の決算代議員会で可決した日から施行する。」を「NORC 1999年度代議員会(1月10日)で可決した日から施行する。」に改正する必要があります。本件については欠席理事には1月7日付文書を速達便にて、ご了承(書面表決書提出理事で、本改正を再考する理事はファクスにて書面表決内容変更の旨の通知を直ちに通報する。)を求めたところ、通報者はありませんでした。本日ご出席の理事には受付で資料訂正の旨の書類をお渡しいたしました。

(c) 高田常務理事補足説明事項

高田常務理事は議案資料にしたがい、説明をした。議案資料以外の補足説明事項はつぎのとおりである。

○ 評議員について

JSAF寄附行為(案)では150名以内とな

っている。JYAの評議員現数は89名であるのでJSAFではJ協会系90名、N協会系45名、合計135名(平成10年4月1日からは99名となるので定数枠一杯としない。)ということになった。N協会支部会員が選挙で選出する評議員候補者数は、P1の選出定数表を1月10日現在の支部別会員数ではめてみると合計36名になり、残り9名の評議員候補者は選挙理事候補が推薦することになる。

(イ) 質疑応答

(a) Q: 小田泰義理事

今回の会議では選挙関係案件を午前理事会、午後同一内容で代議員会で審議することになっている。以前にもお願いしたが、このような重要案件で、内容の訂正を求めたいようなものを同一日で審議するようなことは、定款の運用からみてもおかしいのではないかと。

昨年末個人的には高田常務理事案について異論があるので、電話にて事務局経由で伝えてもらったが、すでに案が固まり、現時点ではイエスカノーしか言えない状況になっている。今回の選挙関係案件は事前に討議時間をかけて立案すべきものである。本議案についてイエスカノーしか言えないならば、1月7日欠席予定者にファクスにて、出席者には本日口頭説明により選挙規則の改正日を2月決算代議員会可決日を本日午後の代議員会可決日をもって施行することに改正したいとする執行部の提案を認めることは出来ない。

A: 高田常務理事

選挙関係案件の基本構想については、機会ある毎に概要説明をし、対案あるときはお知らせいただくようお願いした。

概括的構想は、責任者として考えていたが、具体的な立案作業は昨年12月13日臨時総会で解散決議をいただいてからで、JYAとも幾回か交渉したが、すぐに返事が来る場合ばかりではなく、立案作業を終えたのは開催通知発送直前となり、時間的余裕がなかったことにご理解を得たい。細則附則の日付変更は単なる訂正であり、また訂正を不可とするなら、緊急提案とすることも出来るので規則的には何ら問題ないと考えている。

A: 戸田会長

御説はもっともであるが、小田理事の提案については手続的な問題として処理するか実質的な問題として処理するかは、議論を尽くしたい。

(b) Q: 小田泰義理事

現提案では内海支部が属する西および南ブロックは広すぎ、選ぶべき人がわ

からない。また、内海支部と西内海支部から対立候補があるときは、支部勢力が均衡しているため調整が出来ず、選挙によりシコリが生ずる恐れもある。なお、内海支部は近畿北陸支部とは関係が深い別ブロックになっている。地方を育て、地方が無視されないようにするためには地方区選出理事を増やさなければならない。会員数300人以上支部から理事各1名づつ選出し、残り4人の理事を全国区で選出するようにしたらどうか。

これではJSAFに統合になっても社団的な運用を図ると言ったことにも反するのではない。

A：尾島専務理事・高田常務理事

社団法人から財団法人に移行するが、社団的運用を残すよう妥協の制度を採用したものである。本質的には財団法人は全国視野にて有能な人を理事に選出すればよい。JSAFのN協会系の理事の方々は、当面毎週ぐらいのペースでJ協会系の理事と合会を開催し、各種問題の解決を図らなければならない。NORCの理事会を例にとってみても一部の地方理事を除き大半の理事は1年間に1回程度の出席である。新理事はボランティアにて汗の流せる人であることが条件で、関東地区が多くならざるを得ない。また、理事も平成15年4月1日からはN協会系理事は9名になるので減員のときの対応を今から考えておかなければならない。

諸般の状況を考えると新理事は関東地区出身中心になるのは止むを得ないのではなからうか。

(c) Q：小田泰義理事

地方は活性化への努力を続けて来たが、このような新理事選出制度では空しい。地方の意見をどうやって中央に伝えるかが問題になる。再考を願いたい。

A：尾島専務理事・高田常務理事

JSAFでは常に活動していただける理事で構成することが要件である。JYAの現行地方区選出理事数比も本提案と大差はない。

この後、三井副会長(支部長理事として)、坂谷定生理事、本理事会に出席した清田監事から小田泰義理事と同一意見である旨の表明があった。

(ウ) 休憩

戸田会長は12：40 休憩を宣言した。

(エ) 質疑応答再開

(a) 戸田会長は13：05 審議再開を宣言した。

(b) 戸田会長は、(ウ)による休憩中に関係者で選挙関係案件の取扱いについて協議が行われ、NORC解散、JSAF統合まで時間的余裕のないことから、つぎの

文言を議事録に記録することで出席理事の了解を得て本選挙関係案件を議決することにしたい旨提案した。

- a) JSAF移行後の理事会の運営にあたっては、可能な限り地方の意見を尊重する。
- b) 2001年実施される選挙規則改正時においては、地方の意見が反映されるような改正に努めるものとする。」

(オ) 採決

賛 27名

棄権 1名

(除議長)

結果 審議決定

2) 笹川スポーツ財団への助成金申請することについて承認を求める件

(ア) 議案説明

N協会はJSAF統合後に、ORC Club(ORCの新しいレーティングルール)普及推進のため、N協会主要各支部主催による普及レースの開催を図るものとします。本普及レース開催を計画する支部は、早急に事業計画を策定して、SSスポーツエイド交付申請書を笹川スポーツ財団に、本年1月中旬に申請することについて承認を求めます。

(イ) 採決

賛 27名

棄権 1名

(除議長)

結果 審議決定

3) 三崎支部長の新任同意を求める件

(ア) 議案説明

1998年11月27日三崎支部代議員会において、このたび川久保史朗会員が三崎支部長に選出されたので同意を求めます。

(イ) 採決

賛 27名

棄権 1名

(除議長)

結果 審議決定

報告

1) 会費・船艇登録料等の納入の特例を求める件 1998年度第10回理事会において、1999年度暫定事業計画(案)及び1999年度暫定予算(案)について審議決定をいただき、本2件は1998年度第5回代議員会において審議決定になったが、標題の特例規則の承認なしに理事会で審議決定されたので、代議員会提出審議決定になった規則について内容を説明した。

内容

- (a) 1999年度の会計年度は1999年1月1日から同年3月31日迄とし、会費は特別会員、正会員及び準会員とも3,500円にてその際併せてJSAF1999年度(1999年4月1日～2000年3月31日)会費5,500円も納入するものとする。
- (b) NORC船艇登録更新料10,000円はNORC1999年度分として納入するものと

する。なお、本登録についてはJSAF統合後1年間は有効とする予定である。

2) '98年度安全委員会報告

野口隆司理事(安全委員長)はつぎの内容について報告した。全国安全講習会を1998年11月14・15日佐島マリーナで開催し、24名が参加した。1999年度から全国で均一な公正なレース運営を期すため、ORC特別検査員認定制度を発足させることとする。さし当り講習会参加者は、申請によりORC特別検査員に認定する。

3) ジャパン・グアムヨットレースの実施状況等

ジャパン・グアムヨットレースの実行委員長であった古川副会長は、つぎの内容について報告した。1991年に発生したくたか>号事件で中断していたジャパン・グアムヨットレースは、3隻の出艇により1998年12月26日西宮をスタートし、1999年1月1日から3日にかけてグアムに全艇無事ゴールした。今後のレースの実施については隔年を予定していたが、グアム側主催者の要望により、今年未開催して、以降隔年としたい。本年のスタート地は関東を計画したい。さらに、1998年度は参加艇少なく中止となったジャパンカップは、本年度は関東地区で開催するよう計画したい。なお、本件は以降隔年関東地区、関東地区外ということ計画したい。これらの計画は次回理事会に議案として提出することとしたい。

他に質疑意見等なく、以上で審議を終了し、1999年度第1回理事会を終えた。上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。

平成11年1月10日

議長 戸田邦司

署名人 今北文夫

署名人 野口隆司

1999年度第1回代議員会議事録

1日 時

1999年1月10日(日) 13:40~16:20

2 場所

第1オカモトヤビル 4階会議室

3 出席者

代議員117名中 有効出席者99名

(出席者)

福田義一、別部尚司、斉藤晴彦、野口隆司、足立利男、山本高靖、地曳源樹、川久保史朗、市村俊明、池田栄宏、福田祐一郎、和久井喜治郎、富田稔、関恭一郎、山中昭弘、安木邦貴、渡邊晋也、中里英一、大儀見薫、中村寛、山本憲生、鈴木知二、平賀威、稲葉文則、大野健作、後藤賢治、榛葉克也、浪川宏、松村茂、野田福美、小田泰義、植松由量、都築勝利、坂谷定生、以上 34名

(書面表決者)

米原守、尾口一章、大川和好、方栄世、鳥山陸郎、鈴木利夫、日向野行平、服部一良、近藤等、蒲谷和行、北村勝彦、馬目徳男、周東英卿、羽柴宏次、丹羽秀夫、沼田尚文、林幹雄、堀口三備、渡辺康夫、横山一郎、末松明、原田芳治、早瀬次郎、小林勝海、金井寿雄、井岡裕昭、藤本直樹、余田実、阪田栄一、田村治久、西啓、関野文夫、藁谷俊哉、原島徹、笠原文和、安久彰、渋谷勲、山本一博、岡田清春、猪狩博、貞松猛郎、室井誠、鈴木重行、井野裕、山本昌弘、馬場益弘、松本剛一、小林昇、寺川良孝、山本善徳、剥岩政次、西田兼義、杉本光昭、松永一生、白井義博、田畑勝年、竹内聡一、松本太一、阿部嶺男、長谷川富延、山本秀紀、坂倉純二、加藤強、山田邦彦、河内道夫、以上 65名

4 議 題

議案

- (1) 「N協会のJSAFの役員・評議員候補者選出・推薦にかかわる規則」(略称「JSAF役員・評議員選出規則」)等の一括承認を求める件
 - (2) 笹川スポーツ財団への助成金申請することについて承認を求める件
- 報告 1999年度第1回理事会の状況

5 議 事

(1) 有効出席者確認・代議員会成立

13:40加藤常務理事は、つぎのとおり説明し、本代議員会の成立を告げた。1999年度全新时代議員定数は120名である。1998年12月に1999年度新代議員選挙が行われ、1999年1月10日現在117名が確定し

た。(津軽海峡支部1名未報告、沖縄支部1名未報告、内海支部1名未定 合計3名欠員)

本日会場出席者34名、書面表決者65名有効出席者99名であり、代議員の過半数となっている。

(2) 議長及び議事録署名

戸田邦司会長は加藤常務理事の成立告知を受けて議長となり代議員会の開会を宣言し、戸田議長は議事録署名人に福田義一代議員及び都築勝利代議員を指名し、議事に入った。

(3) 戸田会長挨拶

新年お日度度うございます。懸案のJYAとの統合については昨年12月開催された臨時総会で3月31日NORC解散、4月1日JSAF統合が決まりました。この短い期間にNORCの主張すべき点を明確にして、解散・統合に向けてのすべての基本的問題の解決を図らなければなりません。また、新しい年・新しい組織での事業、例えばグアムレースの再開のような事業の展開を図る必要があります。ご出席の皆さんに一層の努力・支援をお願いして挨拶とします。

(4) 議題

議案

- 1) 「N協会のJSAFの役員・評議員候補者選出・推薦にかかわる規則」(略称「JSAF役員・評議員選出」)等の一括承認を求める件

(ア) 議案説明

- (a) 4月1日発足予定のJSAFの役員・評議員候補者を選出する必要があります。組織統合合意書第8項及び第10項により、それぞれの協会が推薦したものをもちて構成することになっております。
- (b) 「N協会のJSAFの役員・評議員候補者選出・推薦にかかわる規則」等の内容は以下の7つからなります。

1. 前文
2. I JSAFの理事・評議員候補者の選出規則の背景
3. II 両協会の定めるJSAF役員・評議員候補の選出規則の位置づけ
4. III 役員・評議員候補選出・推薦にかかわる両協会規則の共通事項
5. IV 両協会の定める選出規則
6. V N協会のJSAFの役員・評議員候補者選出・推薦にかかわる規則
7. VI N協会のJSAFの役員・評議員候補者選出・推薦にかかわる規則細則上記は一体となっているため、一括審議をお願いいたします。

なお、参考資料として以下を添付します。

1. Offshoreにての1998年12月14日、会長による「公示」
2. N協会のJSAFの役員・評議員候補

者選出・推薦にかかわる日程等一覧

- (c) N協会のJSAFの役員・評議員候補者選出・推薦にかかわる規則細則の附則第1項施行の「NORC 1999年2月の決算代議員会で可決した日から施行する。」を「NORC 1999年度代議員会(1月10日)で可決した日から施行する。」に改正する必要があります。本件については欠席理事には1月7日付文書を速達便にて、ご了承(書面表決書提出理事で、本改正に再考をする理事はファクスにて書面表決内容変更の旨の通知を直ちに通報する。)を求めたところ、通報者はありませんでした。本日ご出席の理事には受付で資料訂正の旨の書類をお渡しいたしました。

(d) 高田常務理事補足説明事項

高田常務理事は議案資料にしたがい、説明をした。議案資料以外の補足説明事項はつぎのとおりである。

○ 評議員について

JSAF寄附行為(案)では150名以内となっている。JYAの評議員現数は89名であるのでJS AFではJ協会系90名、N協会系45名、合計135名(平成10年4月1日からは99名となるので定数枠一杯としないう)ということになった。

N協会支部会員が選挙で選出する評議員候補者数は、P5の選出定数表を1月10日現在の支部別会員数であてはめてみると合計36名になり、残り9名の評議員候補者は選挙理事候補が推薦することになる。

(イ) 質疑応答

(a) 戸田会長

審議開始にあたり、一言述べておきたい。本日午前の理事会において、本選挙関係案件のような重要な議案については、定款に則り、理事会で十分な審議を行って必要な修正をしたうえで代議員会へ議案として提出すべきであるとの強い意見が小田泰義理事等からあった。しかし、昨年12月13日解散決議をいただいてからのタイムスケジュールから、本議案はこのような同一日提案にならざるを得なかったことについてご理解をいただいて理事会において審議決定になり、本代議員会にて審議いただくことになった。また、地方選出理事候補の制度のつくり方に問題がある。地方選出理事候補が少ないと地方の意見の中央への反映不足の懸念が生じるとの強い意見表明があり、次のような文言を理事会議事録に記載して今後遵守することになったので審議開始前にお知らせする。

- a) JSAF移行後の理事会の運営にあたっては、可能な限り地方の意見を尊重する。

b) 2001年実施される選挙規則改正時には、地方の意見が反映されるような改正に努めるものとする。

(b) Q: 別部尚司代議員(東京湾支部)

N協会系理事候補11名全員を執行部が考えるようなエキスパートで固めることが果たして可能か。

A: 高田常務理事

JSAFになると理事は30名から一挙に11名になるうえ、ボランティアとしての業務量も従前に比べ拡大する。適切な選出によりやる気のある有能な人材に出ていただくよう、選挙前からも手だてをする必要があると思っている。

(c) Q: 大儀見薫代議員(三浦支部)

N協会の従前の事業、予算執行の継続性を図るため、N協会系の理事になる人には今後十分な活躍をしてもらわなければならないが、どのような方法でこれを達成するのか。また、現N協会の各委員会の方の統合後での協力を求めるにはどのようにするのか。

A: 戸田会長

まず理事会等各種会合には常に出席できるような人であって、NORCの立場を十分に表明してもらうことである。JSAF統合後各委員会に参加してもらう委員の方々も同様である。その他地方の意見を反映できるようにするため、JSAF役員・評議員による会議のほか、外洋本部内に外洋帆走艇を統轄する団体代表者会議を設け、外洋本部担務理事との意思疎通を図りたい。地方からの積極的な意見表明を期待する。

(d) Q: 野口隆司代議員(東京湾支部)

JSAF統合後、J協会県連組織とN協会支部・フリートとの位置づけはどうか。

A: 戸田会長

JSAFへの統合によりN協会支部が当該地区のJ協会県連組織と合体するかどうかは、N協会各支部の判断により決める問題である。N協会各支部がJSAFの加盟団体として残る場合は、外洋本部の方針に従って事業を実施してもらうことになる。

A: 尾島専務理事

支部の設置基準については今後見直しをしなければならない。また、外洋レースについては外洋本部のルールに従って実施してもらうことになる。

A: 高田常務理事

これまでJYAの方々とは色々交渉をして来たが、どの社会も同じだが、各種各様な人がいる。これからもN協会系で主張すべきことは話し合いをしていかなければならない。今後のポイントの一つは、誰がナショナルオーソリティを支えていくかを認識することではなからうか。

(ウ) 採決

賛 98名

棄権 1名

結果 審議決定

2) 笹川スポーツ財団への助成金申請することについて承認を求める件

(ア) 議案説明

N協会はJSAF統合後に、ORC Club(ORCの新しいレーティングルール)普及推進のため、N協会主要各支部主催による普及レースの開催を図るものとします。本普及レース開催を計画する支部は、早急に事業計画を策定して、SSスポーツエイド交付申請書を笹川スポーツ財団に、本年1月中旬に申請することについて承認を求めます。

(イ) 採決

賛 98名

棄権 1名

結果 審議決定

(ウ) その他

審議決定後大儀見薫代議員(三浦支部)からつぎの意見表明があった。

- a 昨年度春グナムレース裁判は和解金を支払完全に終了したが、レース主催者責任については、明確な考え方を記述した記録を残しておくようにしてもらいたい。
- b レースの主催者問題について未だ検討が終了していない。早急な解決を願いたい。戸田会長は可能な限り速やかに明確な型で処理したい旨述べた。

報告

1) 1999年度第1回理事会の状況

加藤常務理事から、さきの理事会で三崎支部長に川久保史朗氏が同意されたこと及び安全委員会からの報告として、昨年11月に全国安全講習会が開催された。今後ORC特別検査員認定制度を発足させ、同講習会参加者で申請した者はORC特別検査員に認定することとし、これは次回理事会・代議員会で承認を求めることにする旨報告した。古川副会長から、昨年末から新春にかけてのジャパン-グナムヨットレースは3艇参加で無事終了したこと、今後のレースの実施については隔年を予定していたが、グナム側主催者の要望により、今年末も開催して、以降隔年としたい。本年スタート地は関東を計画したい。さらに、ジャパンカップは本年度は関東地区で、以降隔年で関東地区、関東地区以外としたい。これらは次会理事会、代議員会で承認を求めることにしたい旨を述べた。

2) 社団法人 日本外洋帆走協会の定める

JSAF役員・評議員候補者選出選挙告示

(ア) 議案(1)が審議決定施行になったことから、中央選挙管理会 横山勝重委員長が標題告示により各ブロック及び各

支部で選挙をお願いするため、資料の説明を行った。

(イ) 小田泰義代議員(内海支部)から全会員に告示を送送するよう要請があったが、時間的余裕がなく、本日欠席の理事・代議員には明11日告示を送し、各支部の進め方は支部長及び支部事務局・支部選挙管理委員により、然るべく処理してもらうことになった。

3) 事務連絡事項

高田常務理事から次の説明があった。

(ア) 統合後の支部名称

JSAF外洋支部としたい旨述べたがJSAF外洋帆走(艇)支部の方でどうかとの意見が出され、JYAとも協議して後日通知することになった。

(イ) 会費、会員証

a 関東地区銀行引落 1月27日

カード会員引落 2月5日

b 1999年度会員証は表面NORC裏面JSAFとして、会費納入会員に速やかに発行する。JSAF会員にならない人は3月末会員証に鉄を入れて返送していただくと、精算終了後会費を返却する。

c JSAF会費は前納制なので、次年度前に会費を納入しないと自動的に会員でなくなってしまうことになる。

d JSAF統合後外洋レースに出場するときは、帆走指示書により一定条件、一定数のJSAF会員が乗船しなければならないことを予定している。(池田帆走委員長からも同様説明)

他に質疑意見等なく、以上で審議を終了し、1999年度第1回代議員会を終えた。上記議事録に誤りのないことを証明し記名押印する。

平成11年1月10日

議長 戸田邦司

署名人 福田義一

署名人 都築勝利

運輸省海上技術安全局長からの指導文書について

社団法人 日本外洋帆走協会 常務理事 加藤 正義

本年2月1日から、GMDSS（海上における遭難及び安全に関する世界的な制度）が完全実施されることとなりますが、その直前の1月20日、漁船「新生丸」の遭難事故が発生し、EPIRBの使用について大きな社会的関心が寄せられたことから、運輸省海上技術安全局長から、このたび別添文書の別紙「遭難時におけるEPIRBの使用について」を周知するよう要請がありました。取りあえずお知らせしますので、近々オフショアセーリングをする会員に周知をお願いします。

海安第24の2号
平成11年1月27日

海無海第1322号
平成11年2月2日

(社) 外洋帆走協会会長
戸田邦司殿

運輸省海上技術安全局長
谷野 龍一郎

免許人 各位

東海電気通信監理局長

極軌道衛星利用非常用位置指示無線標識装置の使用について

平素より船舶の安全につきましてご理解・ご協力いただきましてありがとうございます。

ご高尚のとおり、平成3年船舶安全法等の改正により、GMDSS(海上における遭難及び安全に関する世界的な制度)に関する無線設備等の設置が義務付けられ、約7年間の移行期間を経て、来る2月1日から完全実施されることとなりました。

一方、今月20日に発生した漁船「新生丸」の遭難事故を契機として、遭難時の極軌道衛星利用非常用位置指示無線標識装置(以下「EPIRB」と言う。)の使用方法についても関心が示されています。

このため、別紙「遭難時におけるEPIRBの使用について」を作成し、改めて関係者に御留意いただきたい事項について周知することといたしました。

つきましては、貴職におかれましても本件の趣旨を十分御理解の上貴団体会員各位に対し、別紙の内容を伝達願いますとともに、GMDSSの各機器の機能、使用方法等について再確認されますよう周知・徹底をお願いし、GMDSSの円滑な実施が図られるよう御協力方よろしくお願い申し上げます。

添付資料)

「遭難時におけるEPIRBの使用について」

「遭難時におけるEPIRBの使用について」

極軌道衛星利用非常用位置指示無線標識装置(EPIRB)を設置する船舶にあつては、万一の遭難時にEPIRBを有効に使用できるよう、以下の事項にご留意願います。

1. 常日頃より、取り扱い説明書等によりEPIRBの正しい使用方法を熟知しておいて下さい。
2. 遭難より救助を求めるときには、EPIRBを取り扱い説明書等に指定された正しい手順で作動させて下さい。
3. EPIRBは、遭難者の位置を特定することを目的とした救命設備であるので、退船する際には、退船に使用する救命いかだ等に携行するようにして下さい。なお、自動浮揚型のEPIRBは、遭難による退船時にEPIRBを持ち出すことができない不測の事態を想定して、当該船舶が沈没する等一定の水圧に達した場合のみにはじめて自動的に浮揚し遭難信号を確実に発信するよう設計されておりますので、自動浮揚型であっても、できる限り、救命いかだ等に携行して下さい。

遭難時における衛星利用非常用位置指示無線標識の使用について

平素より電気通信行政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

平成4年から移行して参りましたGMDSS制度(海上における遭難及び安全の世界的な制度)も平成11年2月1日より皆様のご理解とご協力によりスタートしているところであります。

一方、去る1月20日に発生しました漁船「新生丸」の遭難事故により、遭難時における衛星利用非常用位置指示無線標識(以下「衛星EPIRB」という。)について関心がもたれているところです。

このため、衛星EPIRBの取扱い方法について、改めて関係者に留意していただく事項について周知することとしました。

つきましては、衛星EPIRBを設置する船舶がありましたら、万一の遭難時に有効に使用できるよう下記の事項について周知方お願いします。

記

- 1 常日頃より、取り扱い説明書等により衛星EPIRBの正しい使用方法を熟知しておいて下さい。
- 2 遭難により救助を求めるときには、衛星EPIRBを取扱い説明書等に指定された正しい手順で作動させて下さい。
- 3 衛星EPIRBは、遭難者の位置を特定することを目的とした救命設備であるので、退船する際には、退船に使用する救命いかだ等に携行するようにして下さい。なお、自動浮揚型の衛星EPIRBは、遭難による退船時に衛星EPIRBを持ち出すことができない不測の事態を想定して、当該船舶が沈没する等一定の水圧に達した場合のみにはじめて自動的に浮揚し遭難信号を確実に発信するよう設計されておりますので、自動浮揚型であっても、できる限り、救命いかだ等に携行して下さい。

【連絡先】

東海電気通信監理局
無線通信部航空海上課
TEL 052-971-9179
FAX 052-971-3670

NORC 記念誌発行!!

NORCは、本年3月31日をもって解散、JYAと統合し4月1日JSAFとして新発足する事になりました。NORCの足跡を永く記念するために、NORCの記念誌を発行する事になりました。

NORCネクタイ、クラブ旗、シール等を記念価格にて販売し、記念誌発行の費用にあてます。

是非ご協力をお願い致します。

申込みは下記申込用紙にご記入の上、NORC本部にFAX(03-3452-5815)して下さい。申込み切りは3/20までといたします。

セット価格

Aセット 10,000円(送料込) 限定300部

記念誌

ネクタイ

Bセット 18,000円(送料込) 限定200部

記念誌

ネクタイ

エンサイン

クラブ旗

シールセット(3種)

その他 単品でも販売致します。(送料別途)

記念誌 5,000円

エンサイン 5,150円

クラブ旗 2,050円

ネクタイ 5,150円

シール(3種) 1,330円

きりとり線

NORC記念誌申込書 (3/20申込み切り)

ご氏名 _____

ご送付先住所 〒 _____

会員番号 _____

いずれか○印をして下さい。

Aセット (10,000円)、Bセット (18,000円)

単品

振込先: 住友銀行 東京公務部

(普通) 140514

(社) 日本外洋帆走協会 本部

FAX:03-3452-5815

「海・感動空間」

～人と海のふれあいステージ～

第38回東京国際ポートショー

NORCとJYA共同出展は、成功裏に終わる

2月10日～14日の5日間、東京ビッグサイト(東京臨海副都心)にて開催された第38回東京国際ポートショー(主催:社団法人日本舟艇工業会)は、総入場者数=152,199人、出展社数=152社、ヨット・ポート他展示隻数=206隻を得て終了した。

今回、財団法人日本セーリング連盟(本年4月1日発足予定)として、

NORCとJYAの両協会は共同出展。来場者に新組織のアピール、ならびに両協会のオリジナルグッズを販売、成功裏に終わった。



編・集・後・記

本号も含めて、あと2号です。時には盛んに、時には厳しく続いてきましたオフショア誌もその歴史に一つの区切りを付けようとしています。先人達のご苦勞を思い、昨今のヨット界の趨勢を鑑みると、一人編集子ならずとも感懐も新たな事と思います。統合後の組織準備も着々と進みつつあり、執行部の動きも慌ただしさを増しています。そんな中でポートショウが開かれ、NORCとJYAが共通のブースで活動されているのも象徴的でした。会期中にRORCのジェネラルマネージャーのデビッド・マイノルズさんがアドミラルズカップレースの勧誘に見え、英国のクラブ事情をお聞きしました。

肩肘を張らずに運営しながら、幅広く活動できる彼等のヨットは歴史のなせるものというのが、その日の私たちの印象でした。今は各支部の総会の時期で、各地で開かれています。これからのヨット活動のあり方をレース一辺倒から海そのものを対象とした多様な生涯スポーツへ如何に発展させられるか、皆さん工夫を重ねておられるようです。本誌も4月からは名称も新たに、引き続きしかも新しい仲間も加えた組織で、更なる発展を目指して発行を続けます。最終号、新生号への御提案などお待ちいたします。

(N)